

# 【 大学院聴講生 】

※2022年3月7日現在

担当専修	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日1	時限1	曜日2	時限2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
											大学院聴講生		
インド古典・仏教・西南アジア史	9616001	サンスクリット(2時間コース)(語学)	4	通年	月	4			山口 周子	日本語	○	共通1	
インド古典・西南アジア史	9633001	ヒンディー語(初級)(語学)	4	通年	金	5			小松 久恵	日本語	○	共通2	
キリスト教・西南アジア史	9639001	ヘブライ語(初級)(語学)	2	前期	火	3			手島 勲矢	日本語	○	共通3	
キリスト教・西南アジア史	9640001	ヘブライ語(中級)(語学)	2	後期	火	3			手島 勲矢	日本語	○	共通4	
言語・西南アジア史	9620001	シュメール語(初級)(語学)	4	通年	金	1			森 若葉	日本語	○	共通5	
学部共通	8041001	英語論文作成法(演習)	2	前期	火	4			大崎 紀子	日本語	○	共通6	学部科目
学部共通	8041002	英語論文作成法(演習)	2	後期	火	4			大崎 紀子	日本語	○	共通7	学部科目

共通1

科目ナンバリング		G-LET49 89616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

## サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

### 【履修要件】

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

### 【成績評価の方法・観点】

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

### 【教科書】

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:荻原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

### 【参考書等】

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

### 【授業外学修(予習・復習)等】

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通2

科目ナンバリング		G-LET49 89633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(初級)(語学) Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語(初級)									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1. 導入【1週】											
2. 文字と発音【4週】											
3. 文法と会話【9週】											
4. 中間試験【1週】											
5. 中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6. 文法と会話【8週】											
7. 文法と絵本・新聞講読【6週】											
8. 期末試験【1週】											
9. 期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（初級）(語学)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と筆記試験（期末30%、年度末40％）によって評価する。

### [教科書]

町田和彦『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

### [参考書等]

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通3

科目ナンバリング		G-LET49 89639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号、聖書テキストの伝統、ラビ文学を含む歴史的な言語文化の概要とともに、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介しながら、品詞の区別の意義や名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とピニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業時に指示する暗記課題や練習問題をする。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

共通4

科目ナンバリング		G-LET49 89640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステム及び動詞を含む文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解においては、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含むヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いてテキストが複数の可能性で読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（中級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

**(その他（オフィスアワー等）)**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



共通5

科目ナンバリング		G-LET49 89620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
【授業の概要・目的】											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
【到達目標】											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p>&lt;前期&gt; 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## シュメール語（初級）(語学)(2)

### <後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

### [教科書]

使用しない

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。  
楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く

シュメール語（初級）(語学)(3)

共通6

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>学術論文やエッセイ(小論文)などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行うとともに、引用の方法についても基本的な知識と技術を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
英語と日本語の修辞法の違いを理解し、論理的で説得力のある文章を英語で書く能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>1 Guidance この授業の進め方                  2 Introduction. 書き言葉の語彙                  3-4 学術英語の基礎知識                  5 パラグラフの構造の理解、冠詞                  6-8 パラグラフの統一性と一貫性                  9-10 課題作文の添削と解説                  11-12 引用の方法、文献目録の書き方(基本篇)                  13-14 課題作文の添削と解説                  15 まとめ                  フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
受講者20人まで											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、作文課題(2-3回、計70点)											
【教科書】											
プリント教材を配布します。											
【参考書等】											
<p>(参考書)                  Alice Oshima and Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition.』                  (Pearson Longman, 2017.)                  Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills,                  third edition.』 (The University of Michigan Press, 2012)</p>											
----- 英語論文作成法(演習)(2)へ続く -----											

## 英語論文作成法(演習)(2)

---

### [授業外学修（予習・復習）等]

教材は、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

### （その他（オフィスアワー等））

質問があればメールで随時尋ねてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通7

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(2)									
【授業の概要・目的】											
英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。											
【到達目標】											
英語と日本語の修辞法の違いを理解するとともに、剽窃を疑われない適切な引用の方法と技術を身につける。											
【授業計画と内容】											
1 Introduction 2 Paraphrasing (書き換え) の基礎と演習 3 引用と時制、類義語 4 書き換え練習の添削と解説 5 履歴書、自己推薦書の書き方と演習 6-7 パラグラフから小論文へ 8-9 課題作文 (CV) の添削と解説 10 比較・対照論文の書き方 11 分詞構文の使い方 12-14 小論文作成演習 (作文の添削と解説) 15 まとめ フィードバックの方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
前期を受講していることが望ましい。(受講者20人まで)											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、課題作文(3回、計70点)											
【教科書】											
プリント教材を配布する。											
【参考書等】											
(参考書)											
Alice Oshima and Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition.』 (Pearson Longman, 2017.)											
Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』 (The University of Michigan Press, 2012.)											
----- 英語論文作成法(演習)(2)へ続く -----											

英語論文作成法(演習)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

教材プリントは、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

**（その他（オフィスアワー等））**

質問はメールで随時お尋ねください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。